

2021年度  
入学試験問題

国語

2月1日 午後

受験番号	氏名

中村中学校



問題は次のページからです。

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

- (1) 外務大臣が外交セイサクを発表する。
- (2) 駅前でシヨメイ活動が行われている。
- (3) 傷口にホウタイを巻いてもらう。
- (4) 父の都合で、遠くにテンキヨすることになった。
- (5) 一つのことから別の問題がハセイしてきた。
- (6) 選挙に立候補して、エンゼツをする。
- (7) 百メートル走のキヨウギに出場する。
- (8) ろうかを走るとはキンじられている。
- (9) この少年はイサましい。
- (10) サイワイ今日はよい天気になった。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

\* 字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

自然を「きれいだ」、つまり「自然だ」と意識するのは、何よりも風景を眺めたときではないでしょうか。みなさんはどういう時に風景を眺めますか。生きものを見つめているときには風景は見えません。私たち百姓も、仕事をしているときには風景は見ません。私が風景を眺めるのは、仕事の手を休めるときです。畦に腰を下ろして、一服するときは、なぜ風景を眺めるのでしょうか。たぶん「気持ちがいいから」と答える人が多いでしょう。私もそうです。

A、なぜ気持ちがよくなるのでしょうか。「自然があふれているから」と答えたくなります。風景は天地自然がその姿を現すときです。「風景が目飛び込んでくる」という感覚はありませんか。見ようとすると前に、向こうから飛び込んでくるのです。まるでトンネルを出て、急に視界が開けてきたような感じに似ている時がありませんか。自分が見るといふ行為をしなくても、見えてしまうのです。この感覚が風景の醍醐味です。

B 主役は風景の方に(天地自然の方に)あるからです。私たち自身がいつも天地自然の一部だからです。そのことを(1)忘れていて、(2)「気づく」と天地自然に囲まれているのです。その「気づいた」時の天地自然の姿が風景なのです。これが私たちのありふれた日常の風景というものです。

C、すぐに忘れてしまいます。昨日見た風景で思い出すことができるものは、ほとんどないでしょう。それでいいのです。

D 旅行すると、事態は一変します。普段は見ることはない、他所の目新しい風景が目飛び込んでくるからです。新鮮で、発見があります。昔から「風景は旅行者が発見する」と言われてきました。しかし、毎日毎日、旅行者のように目新しい風景を目にするなら、それは通常ではありえないことであって、すぐに疲れ果ててしまうでしょう。じつは風景はありふれた在所の風景が一番いいのです。自分が生きている世界を内側から見て、味わっているからです。このようにありふれた風景は特別でなく、自然な感じがするから、意識せずいいものなのです。

③ 「殺風景」とは、面白い言葉ですね。これは中国の漢語を輸入したものだそうです。風景を殺すとはただならぬこ

とでしよう。

福岡県でも八女市星野村に実に石垣が美しい棚田があります。ところがこの棚田の上に送電線の鉄塔が建っていました。これが「殺風景」だと批判され、移設されました。

棚田の石垣も鉄塔も人間がこしらえたものですが、なぜ鉄塔は風景を殺すのでしょうか。二つの答え方ができるでしょう。まず、この鉄塔だって、建てられるときには目新しい近代的な風景として登場したのです。山奥のダムから都会に電気を送る文明の使者の姿で現れたのです。しかし、現代では「なにもこんなところで見たくない」と多くの人が(とくに旅行者は)思うようになりました。「こんなところ」とは※がいつぱいのところ、ということでしょう。石積みの棚田は、自然に見えるのです。

人間が天地自然の一員であり、人間の営みも天地自然の一部になっていた時代の棚田なのに、人間が天地自然から抜け出て、工業的にこしらえた鉄塔は合わない、自然な風景を殺しているという感覚は、新しく生まれたものです(こ55  
れは近代化批判の感覚と呼ばれています)。「伝統的な町並み保存地区」という言葉を聞いたことがありますか。全国各地で、江戸時代、明治時代の名残を残した町並みや建造物が「保存」の対象になり始めたのは、一九九〇年頃か

らです。

それは近代化というものが、あまりにもそれまでの伝統的なもの(前近代の形)を破壊し過ぎたことが、誰の目にも見えてきたから始まったのです。近代化は風景を殺すものだったのです。

鉄塔のような新しい大きな人工物なら、すぐに気づきますし、違和感を覚えるような時代に私たちは生きています。しかし、棚田が決して人工物に見えないように、普段の私たちは、人工物を意識的に探して区別しているのでしょうか。

旅行者になってみましょう。目の前に山頂に雪をいたいた高い山がそびえています。麓には、緑豊かな森が広がり、更に手前には田植えしたばかりの田んぼの風景があり、ゆるやかな風が渡っています。さて、どこまでが自然で、どこからが百姓が手を入れて改造した森林や農地だと区別するのでしょうか。少なくとも日本人にそういう感性や習慣はありません。「すべて自然な風景だ」と言うしかありません。こんな時に、厳密にどこまでが人間の手が入った自然かなどと考えていたら、風景を堪能することはできません。

しかし、その風景の一部に高速道路のガードレールが入っていたら、どうでしょうか。目をそらしたくなるでしょう80

う。このように私たちははつきり自然と区別できるものと、できないものがあることを知っています。田畑は自然と区別しませんが、鉄塔や高速道路は区別します。

ところで広々とした長方形の区画に整備された田んぼをどう思いますか。私は狭くて曲がった田んぼに馴染んでいるので、あまりきれいだと思いません（むしろ不自然だと思えます）が、若い人はこちらの方がきれいだ（自然だ）と言う人も少なくありません。

どうやら、自然と非自然（人工）を区別する基準は、その風景が「自然か、不自然か」ということのようにです。人の手が入っていても、それが不自然でなく自然な感じであれば自然に含ませても違和感がないのです。これは日本人の自然の見方で、とても大切なことです。

しかし、こんな曖昧な基準では、個人差が大きすぎて、自然を守る基準としては困りものです。そこで、科学ではこの不自然ではない基準を「生物多様性」や「持続可能性」や「物質循環」や「エネルギー収支」などで、計ろうとしますが、うまくいっていません。なぜなら私たちの実感や感覚とつながらないからです。

そこでもう一つの方法は、私たちの不自然だと感じる感性を鍛えて研ぎ澄ますことです。しかし、これも簡単では

ありません。なぜなら不自然なものが日増しに増え続けているからです。

（宇根豊『日本人にとって自然とはなにか』筑摩書房）

問一 ——— 線①の「一服する」は、もともと「たばこを吸う」「お茶を飲む」という意味ですが、広く慣用的にはどのような意味で使われますか、簡潔に答えなさい。

問二   に入る言葉を次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア、なぜなら
- イ、ですから
- ウ、もし
- エ、でも
- オ、ところが

問三

—— 線② 「風景の醍醐味」について、「醍醐味」

とは、「深い味わい、本当の楽しさ」といった意味ですが、これを参考にして、「風景の醍醐味」を具体的に説明している箇所を二十四字でぬき出して答えなさい。

問四

( 1 )、( 2 ) には、それぞれすぐ後の「忘れる」「気づく」をよりくわしく表現するためによく使われる、ひらがな二字の語が入ります。

次の  にあるひらがなから適切に二つ組み合わせてその語を作りなさい。

つ と か ふ い

問五

—— 線③について、

- (1) 「殺風景」の読みを答えなさい。
- (2) ここでの「面白い」の意味は次のどれに近いですか。記号で答えなさい。

- ア、こっけいな
- イ、不思議な
- ウ、興味深い
- エ、おそろしい

問六

—— 線④の「られる」と同じ意味の「られる」を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、こつそりゲームをしているところを見られる。
- イ、帰られるときはこちらの出口からどうぞ。
- ウ、一人暮らしの祖母のことが思いやられる。
- エ、まだもう一皿食べられる人はいますか。



問七

※ に入る語を、漢字二字でぬき出して答えなさい。

問十

次のア～オについて、問題文の内容に合っていればA、合わなければBを解答らんに記入しなさい。

問八

—— 線⑤に「伝統的な町並み保存地区」とありますが、このようなものが生まれたきっかけはどのようなことですか、四十字以内で説明しなさい。

問九

—— 線⑥とありますが、田畑と鉄塔や高速道路は、どのような点で区別しているのですか。次の書き出しに続けて説明しなさい。

田畑も鉄塔や高速道路もともに人の手が入っているが、

ア、風景はこちらから積極的に見つけに行かないとなかなか見つけられないものである。

イ、仕事をしながらながめる風景は格別で、仕事の能率を上げてくれる。

ウ、旅行で見る風景と日常生活で見る風景では、日常生活の風景の方がよいものである。

エ、整然と区画整備された田んぼは、筆者と多くの若い人とはとらえかたが<sup>ちが</sup>違う。

オ、「伝統的町並み保存地区」は今後さらに全国で進めていくべき事業である。

③ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

(設問の都合上、本文を改変、省略したところがあります。)

\*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

蒼月勝あおつきまさるは足をねんざしてサッカーの練習を休んでいたが、少しずつ練習に出られるようになっていた。しかし、試合のレギュラーから外され、チームメイトの竜りゅうとけんかをしてしまった。

「お母さん？」

※しんさつしつ

診察室のドアを開ける。

「あら。勝、どうしたの？」

「どうしたのじゃないよ。朝ご飯は？」  
① お昼から学校行くんだけど。」

お母さんは診察室の時計を見て、立ち上がった。

「ほんとは、もうこんな時間。お父さんに買い物たのんだのよ。もう帰ってるかしら？」

「あ、うん。さつき、帰ってきてたよ。」

「今日もサッカーの練習に行くんだったわよね？ そろそろしたくしなくちゃ。」

5

10

お母さんは、机を照らしている電気スタンドを切った。

「きのうも話したけど、練習は別にいいんだ。県大会のレギュラー外されたことだし、今日も午後から図書委員の手伝いするだけだからさ……。」

おれは不満ぼくはつが爆発ばくはつしそうなのと、半分投げやりはんぶんになっているので、かかどで床ゆかをけた。お父さんとけんかしたこともあるけど、もうひとつ、幼なじみの真由子まゆこさんのことをまだ聞けないでいることもモヤモヤの原因だった。

「お母さんこそ、元気ないんじゃない？ 今日病院休みなのに、診察室に来てたりしてさ。」

「きのうまではちよつと落ちこんでいたけど、もう今日は平気よ。」

お母さんは分厚い医学書をパタンと閉じて、立ち上がった。  
※た。

「ナツメちゃんのこと？」

そういうおれも、実は気になっていた。

「うん。お父さんに話をしたら、『なやんでばかりいないで、  
④ 今のお母さんにできることがあるんじゃないか？』って言われたの。」

診察室の机の上には、分厚い医学書の他に薬の本や、お母さんの文字がたくさん書かれたノートがあった。

25

30

15

（お母さん、勉強していたんだー）

おれはお母さんのノートを手に取って、ペラペラとページをめくった。書き直したり、線が引いてあったり、エンピツで印がついていたりして、真っ黒で読めない文字もあった。

「お父さんは、こんなことも言ってくれたわ。『生きていると、どうしようもないこともある。ペットを飼うということ、動物の医者になるといことは、命と真っ正面から向き合う覚悟かくごをしなくちゃいけない。』って。」

「真っ正面から向き合う覚悟って？」

「ペットとして飼っている動物は人間よりも命が短く、弱い生き物だということを受け入れるってこと。必ずペットが先に死ぬの。だけど命には重いか軽いかはないの。みんな等しく尊い命でしょう？」

「そうだね。」

「だから、今を一生懸命いっしょうけんめいに生きなくちゃね。勝もよ！」

「おれが今、一生懸命いっしょうけんめいでできることなんて、ない気がする。」

おれはサッカーのレギュラーを外されて、すごく動揺どうようしていた。くやしいとか悲しいとか、腹が立つとか、いやな感情ばかりが出てきてしまう。

「なによ、レギュラーをいちど外されたぐらいで練習休む

なんて、あんた本当にサッカー好きなの？」

「好きに決まってるだろ！ おれの夢はプロのサッカー選手になることなんだ。だからいっぱい練習をして試合にも出たかったのに！」

⑤ どうして県大会のレギュラーを外されたのか、コーチに聞いてみたの？」

「そんなもん聞かなくてもわかってるよ。足をねんざしてずっと練習もできなかつたんだからさ。おれの足が使いものにならないからに決まってるじゃん。」

「そうかなあ。」

お母さんは、クスクス笑っている。

「たかが県大会でしょ？」

「たかがって……。お母さん、全然わかってないなあ。県大会で優勝しなくちゃ全国大会には行けないんだよ！」

「県大会で無理をしたら、全国大会であんたの足は使いものになるの？」

おれは自分の右足を、目をこらして見た。

（こうして歩くだけなら、全然痛くない。接骨院の先生にも、練習で軽く体を動かすくらいならいいって言われた。だけどきのう紅白戦で思いつ切り切っていたら、たぶん痛いのを我慢がまんして「痛くない。」って言っていただろうな、

おれ。」

「毎年全国大会に行くぐらい強いクラブチームなんだから、コーチだって県大会のあとのことを考えているのよ。」

「それじゃ、おれの足を休ませるために？」

「わたしはコーチだったら、絶対にそうしてるわね。」

お母さんはおれの右足にそつとふれて、「痛くない？」と聞いた。おれは、うんと首をたてにふつた。

「よかった。はれていたときは、こうしてふれただけでも痛がっていたものね。もうほとんどよくなっているのよ。」

もう、心配したんだから。」

お母さんは、うれしそうに笑った。

「それに勝はまだ小学生。これから中学や高校で、サッカーに限らずやりたいことがたくさんあるでしょう？」

「そりゃ、まあ……。」

おれの夢は全国大会に出ることじゃなくて、プロのサッカー選手になること。サッカー以外にだって、まだまだ好きになるものが出てくるかもしれない。

「コーチは勝の足や成長する体のことを一番に考えて、県大会はレギュラーを外したんだとお母さんは思うんだけどちがうかなあ。あと、県大会の決勝ぐらいには強いチームが出てくるから、勝の出番があるかもしれないし。」

75

おれはその瞬間、きのう、竜とけんかになったとき、

竜が言った言葉を思い出していた。

『おまえがいなくても、県大会は優勝できるようにがんばる。だから……。』

きのうはコーチからレギュラーを外すって告げられてカッとなつて、竜の言葉も最後までちゃんと聞けなかった。

(だから……つて、あのあとなにを言いたかつたんだろ

う？ おれ、竜のこと突き飛ばして、逃げて来ちゃつたんだっけ。)

そのまま練習も見ないで、とつと図書室へ来てしまつたことを、おれは少しだけ後悔⑦していた。

「みんな、今できることを一生懸命がんばっているのよ。勝も後悔⑧のないように、足をしっかり治さなくちゃね。」

お母さんは、おれのおでこを指でツンとつついた。なんかきのう、同じようなことを言われた気がする。※たくみさんに。やり残したことがないように、後悔のないように、今を一生懸命生きるんだつてさ。

「さ、ご飯をしっかりと食べて、サッカーの練習に行つたらっしやい。」

お母さんは、いすから立ち上がった。おれはきのうたくみさんに会つたこと、幼なじみの真由子さんについて、お

95

115

母さんに聞いてみようと思った。

「あ、お母さん、あのさあ……。」

「話はあとあと。朝ご飯作らなくちゃ。お父さん、すぐーく待たせちゃってるわね。ここ片付けて行くから、勝、先にもどつてて。」

お母さんは、デスクの上の資料を片付けながら言った。

「りようかい！」

おれは診察室を出て、また小走りで自宅へもどった。

へ 中 略 へ

校舎の前を通過して、グラウンドへ向かう。

（あれ？ みんな、どこにいるんだろう？）

竜たちの練習している姿が、どこにも見えない。

（そろそろ準備運動も終わって、パス練習が始まってるどころなんだけどなあ。）

おれがグラウンドに近づいていくと、ゴールポストの近くで円陣えんじんを組んでいるみんなの姿が見つかった。

『なにがなんでも、県大会は優勝をして代表になるぞ！』

『三連覇れんぱだ！』

キャプテンに続いて、チームメイトの声がひびいた。

135

130

125

『全国大会は勝といっしょに出るぞ！』  
今度は竜の声。  
『そのために県大会は蒼月の足を休ませて、治療ちりょうに専念させると決めたんだ。わかってるな！』

コーチの声も聞こえてきた。

『県大会は勝のために優勝するぞ！』

おれはうつむいたまま、なにも言えなかった。そして、しばらくしてから小さな声でつぶやいた。

「おれ、めちやくちや I ……」

おれは、竜やほかのチームメイトのことを信じられなかったり、コーチのことをうらんだりしていた。体中がかつかと熱くなって、その場で「おれ、バカだー」と怒鳴どなった。

急に力がぬけて、おれはふにやふにやとその場にすわりこんだ。

「そういえばコーチ、今まで通り筋トレだけはちゃんとしてけって言ってたな。」

なんであのとき、最後まで話を聞かなかつたんだろう？  
なんでもつとコーチや竜たちの心の奥おくを知ろうとできなかったんだらう？  
と思うと、なみだが出そうになった。こらえようとすると、のどの奥が痛くなってツバをゴクンと飲みこんだ。

155

150

145

(あとでコーチや竜に II。そして、みんなとい  
つしよに、今おれができる練習をしつかりとやろう。)

160

(小原麻由美『図書室のふしぎな出会い』文研出版)

※診察室……勝の母は獣医じゅういで自宅に続く一棟むねで動物病院  
を開いている。

※真由子さん……勝の母の幼なじみ。

※ナツメちゃん……この前日、母の動物病院に連れてこ  
られたが、死んでしまった小鳥。

※たくみさん……勝の母の幼なじみで近所の寺で住職を  
している。

問一 —— 線①とありますが、勝が学校へ行く目的を本

文中から探し八字でぬき出しなさい。

問二 —— 線②とありますが、勝はどんなことを「不満」

と知っているのですか。解答らんに合うように十五  
字以内で答えなさい。

問三 —— 線③「投げやりになっている」とはどのよう

な状態ですか。最も適当なものを次から選び、記号  
で答えなさい。

ア、落ちこんでいる状態。

イ、物事に集中している状態。

ウ、ずっと先のことが気になる状態。

エ、何もかもどうでもよくなっている状態。

問四

——線④とはどのようなことだと「お母さん」は考えて行動していますか。本文中から二字の言葉をぬき出して答えなさい。

問八

I、II にあてはまる言葉をそれぞれ次から一つ選び、記号で答えなさい。

問五

——線⑤とありますが、「コーチ」の考えを本文中の言葉を用いて四十字以内で答えなさい。

II

ア、聞きこう  
ウ、贈おくろう  
イ、謝あやまろう  
エ、話わそう

問六

——線⑥の後に「竜」はどのようなことを言いたかったのですか。「だから」につながるように考えて二十字以内で答えなさい。

問九

この文章の後、勝はどんな行動をとったのでしょうか。そしてこのチームは、どのようなようになっていったのでしょうか。自由に書きなさい。

問七

——線⑦、⑧二つの「後悔」は内容が異なります。それぞれ説明しなさい。